

1. 件名：「東海第二発電所の設計及び工事の計画の認可申請（所内常設電源設備（3系統目）の設置）に係る事業者ヒアリング【3】」

2. 日時：令和5年10月16日 14時05分～14時45分

3. 場所：原子力規制庁 9階C会議室（TV会議システムを使用）

4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

加藤管理官補佐、高橋管理官補佐

日本原子力発電株式会社：

発電管理室 部長 他5名

東海第二発電所 保修室 保守統括Gr リーダー※ 他2名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり。

（注）：音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

資料1 設計及び工事計画認可申請書（東海第二発電所の設計及び工事の計画）
（抜粋）（資料1）

資料2 東海第二発電所 設計及び工事計画認可申請書 補足説明資料（改2）
（抜粋）（資料2）

資料3 東海第二発電所 設計及び工事計画認可申請書 確認事項整理表 【SA設
工認（所内常設直流電源設備（3系統目）設置）】（資料3）

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	原子力規制庁の加藤です。ただいまより、東海第2発電所の設計及び工事の計画の認可申請、所内常設電源設備3系統目の設置に係る事業者ヒアリングを行います。
0:00:16	それでは事業者の方から説明をお願いします。
0:00:22	はい。日本原燃の関根でございます。それでは将来増殖電源設備3系統目の資料の方をご説明させていただきます。本日資料一番、2番3番とございまして、
0:00:34	先にですね資料3番のコメントリストの回答の方からまずさせ、先にさせていただきますと思います。資料3番の方をお願いいたします。
0:00:47	はい。資料3番につきましては東海第2発電所設計及び工事計画認可申請書確認事項整理表のうち、所内常設直流電源設備3系統目の設置の内容でございます。
0:00:59	で、こちらの3ページの資料になってございまして、資料のほうですが、まず変更点のところですが3分の2ページをお願いいたします。はい。
0:01:10	3分の2ページですがこちら、ナンバー8のところですね、前回のヒアリングにおいてですね、
0:01:17	火災防護に関わる異常警報の発報先についてのコメントに対する回答のところですね、審査会合資料の方には、記載の通り反映してございますが、
0:01:28	一部ですね、特重設工認側の審査状況を踏まえて、必要に応じて追加回答させていただくといった形でこちらの方白抜きで、今回お示してございます。
0:01:40	続きまして本日回答としまして、
0:01:44	農業の3分の2ページのNo.12になります。
0:01:47	こちら、前回の10月10日のヒアリングにおきまして、補足説明資料中ですね、経営の用語のす養護施設について、
0:01:58	出店を確認して適正化することと、いったご指摘いただきまして、こちらの回答になりますが、経営の用語につきましては、まず用語集のほうは、容量換算時間、
0:02:10	という記載がですね、適切であるためこちらの資料の方ですね、適正化いたしました。
0:02:15	また合わせてですね同様のページのところにですね、参考の文献、
0:02:20	能名称、
0:02:22	の方も記載のほう適正化してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:25	こちら数値の方は、蓄電池の放電時間、蓄電池温度許容最低電圧、du 変化に対して所定の条件により、容量換算するためケースを記載して、
0:02:36	ございましてこちらの適正なものを記載しておるとい形でございます。こちらの資料反映箇所になりますが、資料 2 の方、確認ください。
0:02:49	はい。こちらですねし資料 2 の通し番号の 3 ページになります。
0:02:59	はい。こちら、3 ページの方は、補足の 15 の説明資料になりまして、
0:03:07	ちょうど右下のところですね、経営と書いてあるところここを容量換算時間といった形で黄色ハッチングしているところを修正してございます。
0:03:17	また、真ん中の一番下のところですね
0:03:21	参考文献として記載してございます。電池工業工業会規格のところの
0:03:29	規格名称のところですね据え置き鉛蓄電池の容量、
0:03:34	容量算出法といった形で正式名称の方に規格名称の方へ修正してございます。はい。コメントリストの回答につきましては以上になります。
0:03:47	じゃ、続けてですね申請書の方の中身をご説明させていただきます。資料番号 1、1 の方をお願いいたします。
0:04:01	はい。資料 1 の方ですが、
0:04:04	まず通し番号のところ右下の通し番号、2 ページの方をお願いいたします。
0:04:10	こちら、資料 2 としまして、設備別記載事項の設定根拠に関する説明書でございます。今回新設設備に関する設定根拠の方、
0:04:20	資料 2 項で、内容の方をご説明いたします。
0:04:24	では、1 枚めくっていただきまして 3 ページお願いいたします。
0:04:28	はい。3 ページから 5 ページまでにつきましては、無停電電源装置 3 系統目用の容量設定の説明でございます。4 ページの方をお願いいたします。
0:04:43	はい。4 ページにつきましてはまず無停電電源装置 3 系統目用といったところで容量の方が 35kVA、個数の方は 1 個となります。
0:04:53	設定根拠のほう概要からご説明させていただきます。
0:04:57	これ重大事故
0:04:59	事故等による、発電用原子炉の附属施設のうち非常用電源設備として使用する無停電電源装置 3 系統目は以下の機能を有すると。
0:05:07	無停電電源装置 3 系統名は、DBの電源が喪失したことにより、
0:05:12	重大事故等が発生した場合において炉心の著しい損傷、原子炉格納容器の破損、貯蔵、
0:05:19	槽内燃料体等の著しい損傷及び、運転中、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:23	運転停止中原子炉、燃料体の著しい損傷防止するために必要な電力を確保するために設置しますと。
0:05:30	系統構成につきましては、DBの電源が喪失し、所内常設直流電源設備として、125V系蓄電池A、B、または常設代替直流電源設備として緊急用の125V、
0:05:44	系蓄電池が使用できない場合に、125V系蓄電池3系統目押しをし、無停電電源装置3系統目用から重大事故等対応に必要な計装設備電力を供給できる設計とすると。
0:05:57	他系統構成でございます。
0:05:59	はい。その1ポツの要領の設定根拠になりますが、無停電電源装置3系統目の容量は、
0:06:07	井清時の言う計装設備電力供給できる容量として35kVAの容量としてでございます。
0:06:14	こちら容量の算出根拠につきましては、こちらの無停電電源装置の3系統運用の供給先となります。非常用無停電電源装置B系、
0:06:24	と、緊急用無停電全電源装置、
0:06:27	等並びにですね非常用無停電電源装置系統、
0:06:32	ちょっとすみません、前後しましたが非常用無停電電源装置ABと緊急用、この三つにですね、負荷を供給する必要がございます、その中で最も負荷容量の大きい、
0:06:45	今回非常用無停電電源装置A系を用いて、容量のほうを設定してございます。
0:06:51	下のですね表1-1にお示しているところが非常用無停電電源装置の負荷容量になります。こちらに対して負荷容量8.8kVAに対して、
0:07:03	十分な容量を持ちます35kVAといった形で容量の方は問題ないというふうに考えてございます。
0:07:10	続きまして5ページをお願いいたします。
0:07:14	はい。2ポツの個数の設定根拠になります。こちらにつきましては、無停電電源装置3系統名簿は
0:07:22	SGの対応として必要な個数である1個設置するといった内容でございます。はい。続きまして6ページをお願いいたします。
0:07:31	はい。6ページにつきましては、125V系蓄電池3系統目のよる。
0:07:37	設定根拠に関する説明書になります。はい。7ページをお願いいたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:44	はい。7 ページの方ですが、上からですね 125k 蓄電池 3 系統目と容量の方が、6000 アンペアアワー組といった容量です。個数の方は
0:07:55	1 組といった形でございます。
0:07:58	設定根拠につきましては、概要の方ですね、記載内容につきましては先ほど無停電と途中まで一緒のため、ちょっと内容の方割愛させていただきます
0:08:09	戸田 2 パラグラフ、
0:08:11	系統構成はといったところから、こちらの方ご説明いたします。
0:08:16	系統構成の方は、DBの電源が喪失し、将来増殖電源設備の、
0:08:21	A系B系と、常設代替直流電源設備の緊急用の蓄電池が使用できない場合に、125 号炉系蓄電池 3 系統目押しをし、し、
0:08:31	1 時間以内ですね中央制御室において、簡易な操作、
0:08:36	出野切離し負荷の切り離しを行い、
0:08:38	また 8 時間後にですね、その後、必要な負荷以外を切り離して、もうこの 16 時間の合計 24 時間にわたり、
0:08:48	必要な直流電源設備を供給できる設計としてございます。
0:08:52	こちら、その下の 1 ポツの容量の設定根拠になります。
0:08:56	こちらですね
0:08:58	125V系蓄電池 3 系統目の容量は、必要な負荷以外を切り販促というふうに、24 時間以上直流を供給できる設計として、6000 アンペアアワー組としてございます。
0:09:10	こちら容量の算出につきましては、125V系のA系B系SA系と、3 系統の負荷ございまして、そのうち最も負荷容量の大きい、
0:09:21	125 とK蓄電池B系の負荷を用いて評価をしてございます。
0:09:26	8 ページをお願いいたします。
0:09:30	はい。8 ページの方では、125 時計蓄電池B系の負荷に対して今回、125%と系蓄電池 3 系統目で供給する負荷を、
0:09:41	0 分から 24 時間にわたりといったところでそれぞれ時間別に必要な容量を記載してございます。
0:09:51	はい。続きまして 9 ページをお願いいたします。
0:09:57	9 ページでは、先ほどご説明しました 125V系蓄電池B系の負荷を用いて、それぞれですね必要な負荷容量の方を
0:10:08	SBAの規格に基づくですね計算式に当てはめて計算してございます。こちらの計算結果の方ですが、種々最後ですね、24 時間につきましては、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:19	5694 万アンペアアワーといった評価になりまして、今回ですね 5694% を上回る 6000 アンペアを有する蓄電池を設定してございますので、必要な
0:10:33	直流負荷に電力を供給可能であるといった設計でございます。
0:10:37	続きまして 10 ページをお願いいたします。
0:10:41	はい。10 ページの方につきましては、先ほどの 125 オオバ時計蓄電池 B系の切り離し対象の負荷のリストをお示ししてございます。
0:10:54	はい。続きまして 11 ページをお願いいたします。
0:10:58	はい。11 ページの方は個数の設定根拠としまして、125 ハタケ蓄電池 3 系統目につきましては、
0:11:05	衛生上の対応に必要な個数として、1 組設置するといった内容でございます。
0:11:12	はい。
0:11:12	続きまして 12 ページをお願いいたします。
0:11:19	はい。12 ページにつきましては資料 2 別添 1、技術基準要求機器リストといった資料でございます。
0:11:27	こちらですね 14 ページの方をお願いいたします。
0:11:33	はい。14 ページの概要のところですが、本資料はですね基本設計方針にのみ記載する設備に対して性能及び機能及び性能を明確に記載する必要がある設備を選定しまして、
0:11:44	リストのほうを作成してございます。
0:11:47	こちら技術基準要求機器リストにて選定された設備については、その要領の設定根拠について別添 2 の方で、資料の方をご説明するものとなります。
0:12:01	はい。15 ページの方をお願いいたします。
0:12:07	はい。15 ページの方ですが、2 ポツの技術基準要求機器リストとしまして今回ですね、基本設計方針 2 で記載してございます。設備の方ですが、
0:12:20	直流 125V系充電器、3 系統目。
0:12:23	と、直流 125V主母線盤 3 系統目と。
0:12:27	最後に無停電電源切替盤 3 系統目用といった形でこちら、表の真ん中のところにですね基本設計方針記載内容としまして、
0:12:37	将来醸成直流電源設備 3 系統目は、125V系蓄電池 3 系統目、回路等で構成し、125V充電器 3 系統名、
0:12:47	直流 125 年母線版 3 系統目。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:50	沖油脂まして直流の
0:12:53	それぞれ処方せん版へ電力を供給できる設計とするといった内容とすねまた、無停電電源装置 3 系統目用無停電電源切替盤、3 系統目用を經由しまして、
0:13:05	非常用のですね計装分電盤、計装電源に供給できる設計とするといった内容を基にしまして、こちらの機器を選定してございます。
0:13:15	普通に明確にする仕様につきましては電圧電流個数といった形で記載資料の方は設定根拠に関する説明書の別添の方にて記載してございます。
0:13:26	はい。続きまして 16 ページをお願いいたします。
0:13:31	はい。16 ページにつきましては資料 2 の別添 2、設定根拠に関する説明書の別添になります。
0:13:38	で、資料の方 18 ページをお願いいたします。
0:13:43	はい。こちら、1 ポツの概要ですが、本資料は別添 1 の技術基準要求機器リストにて選定された設備の容量設定
0:13:52	てに関する説明をSHOEI作成し、主要根拠について説明するものでございます。
0:13:58	はい。
0:13:59	1 枚めくっていただきまして 19 ページからお願いいたします。
0:14:05	はい。19 ページになりますが、こちらは直流 125V地区で、充電器の 3 系統目になります。容量の方は 300 アンペアや個数につきましては、1 個となります。
0:14:18	はい。こちら設定根拠の概要につきましても前段の部分はちょっと割愛させていただきますまして系統構成のところから、
0:14:26	ご説明します系統構成は、DBの電源が喪失し、将来醸成直流電源設備として 120V系蓄電池ABまたは常設直流電源設備の緊急用の
0:14:38	125V蓄電池が使用できない場合に、
0:14:43	125V系蓄電池 3 系統目を使用し、直流の 125V充電器、3 系統目より、直流 125V処方せん版 3 系統目及び
0:14:53	無停電電源装置 3 系統目様へ電力を供給できる設計としてございます。
0:14:58	電圧につきましては、下流に設置されている処方せん版と同じ 125Vとすると。
0:15:04	こちら容量、その下容量の設定根拠になります。
0:15:08	まず、充電器の容量としましては、300 アンペアの容量でございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:14	容量の算出につきましては、
0:15:18	設計基準事故対する電源が喪失後、1分以降ですね、連続的に給電される負荷電流のうち、125V系。
0:15:26	の蓄電池B系及び緊急用125Vホテ蓄電池よりも、負荷容量の大きいですね、125V系蓄電池A系を用いて評価してございます。
0:15:37	こちら評価結果につきましては負荷電流285アンペアに対して十分な余裕、
0:15:44	優良容量要しております300アンペアと設定してございます。
0:15:49	はい。20ページの方をお願いいたします。
0:15:54	はい。20ページにつきましては、先ほどの負荷電流の積み上げのところになります。こちら、125V系蓄電池の
0:16:04	AA系の一部から60分値の負荷の積み上げを記載してございます。
0:16:10	最後にポートのところでは個数の設定根拠しまして充電器の方は、
0:16:16	イセ時に必要な個数であります。1個設置するといった形でございます。
0:16:21	はい。続きまして21ページをお願いいたします。
0:16:26	はい。21ページにつきましては直流125V処方せん版3系統目になります。容量の方は1200アンペアや、コストの方は1個となります。
0:16:37	設定根拠につきましては
0:16:39	野中まで飛ばしまして系統構成のほうですが、DBの電源が喪失した場合に、将来常習直流電源設備で設備3系統目である125Vハタケ蓄電池3系統目を
0:16:51	直流125V年母線盤へ接続することにより、直流負荷へ電力を供給できる設計としてございます。
0:16:58	で、その下、1ポットの容量の設定根拠になりますが、
0:17:03	こちら容量の方は1200アンペアや、
0:17:06	容量の算出につきましては、
0:17:10	設計基準事故耐性の電源が喪失後1分以降ですね連続的に給電される負荷電流のうち、
0:17:16	先ほどの充電器と同様ですが、AとB系と、血清緊急用の蓄電池よりも負荷容量の大きい125V系蓄電池A級を用いて、
0:17:27	評価してございます。
0:17:29	こちらの、
0:17:30	評価結果につきましては先ほどの2、2ポット1-1の充電器の説明と同様になりまして、室負荷電流の方に185アンペアに対して、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:42	容量を 1200 アンペアとしておりまして問題ないという記載でございます。
0:17:47	個数の設定根拠につきましてはこちらも同様にですね、政治に必要な個数としまして 1 個設置すると、記載でございます。
0:17:55	はい。続きまして 22 ページをお願いいたします。
0:18:00	はい。22 ページの方ですが、こちら無停電電源切替盤、3 系統目用といったところでこちら全部で 4 種類バーの方でございます。
0:18:12	無停電電源切替盤 3 系統目用といったものと 2A2B、緊急用といった形で全部で四つ切り換え盤がございます。
0:18:23	こちら容量の方は、すべて 400 アンペアと、個数につきましてはそれぞれ 1 個ずつといった形でございます。
0:18:31	はい。設定根拠の方の、
0:18:33	概要になりますが、こちら前段の部分は割愛しまして、真ん中辺りのところからですね、政治とし、重大事故対処設備として設置する無停電電源切替盤。
0:18:45	3 系統目は、無停電電源切替盤、3 系統目用と、
0:18:50	2A2B、緊急用といった 4 名のコース盤で構成されます。
0:18:56	それぞれ系統構成については以下に記載してございます。
0:19:00	まず無停電電源切替盤 3 系統目。
0:19:04	になります、こちらですね、
0:19:09	とですね 125 ハタケ蓄電池 3 系統目から、作り 125V 充電器 3 系統目及び無停電を介して、無停電電源切替盤 3 系統目接続する、することにより計測設備へ電力を供給できる設計としてございます。
0:19:24	一方でその下ですね、T2 につきましては、先ほどの無停電電源切替盤 3 系統目を介して、三重系の切り換え盤に接続することにより、
0:19:37	計装設備へ電力を供給できる設計としてございます。
0:19:41	はい。23 ページをお願いいたします。
0:19:47	はい。こちらも無停電電源切替盤、3 系統目用の A と 2B につきましても、先ほどと同様にですね、無停電電源切替盤の 3 系統目を介して、
0:19:59	A2B の切り換え盤接続することにより計装設備電力を供給できる設計とすると。
0:20:05	で、その下ですね、無停電電源切替盤 3 系統目用の緊急になります。こちらにつきましても同様で、MTN 切り換え盤 3 系統目用を介して、
0:20:17	こちらの緊急の切替盤に接続することによって計装設備へ電力を供給できる設計としてございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:26	はい。系統構成の方は以上でその下の 1 ポツの容量の設定根拠になります。
0:20:32	こちら、無停電電源切替盤 3 系統目用の容量の方は 400 アンペアパートとしてございます。
0:20:40	考え方につきましては、こちら切替盤の上流に設置されております無停電電源装置 3 系統目用の容量。
0:20:49	に対して
0:20:51	負荷の方にですね電力を供給できる設計としてございます。
0:20:56	こちら無停電電源装置 3 系統目用の容量が 35kVAになりますので、35 kVAの負荷電流の方計算、
0:21:06	最大電流の方につきましては、292 アンペアとで計算に結果になります。
0:21:12	こちら 292 アンペアに対して十分な流せる容量である 400 アンペアの使用の場を使ってございますので、
0:21:21	問題ないといった形でございます。
0:21:24	こうですね 1 ポツ 2 と Hポート 3、1 ポツ 4 もですね同様にですね、それぞれ切り換え盤の上流には無停電電源切替盤の 3 系統目用であったり、
0:21:35	非常用無停電電源装置 AB 緊急用等でございます。これらの盤につきましては、容量すべてアノ 35kVA の容量になりますので、
0:21:45	最大の負荷電流としましては 292 アンペア、それに対しまして切替盤の方 400 アンペアで設計してございますので、容量としては
0:21:57	十分問題ないといった形でございます。
0:22:00	で、ページ番号 25 ページの方いきまして、最後ですね、個数の設定根拠につきまして、それぞれ切り換え盤、
0:22:11	全部で 4 名ございますが、清純必要な演芸を確保する個数としまして、それぞれ 1 個で設計して設置するという形でございます。
0:22:22	はい。
0:22:24	資料の説明につきましては以上になります。
0:22:30	はい、原子力規制庁の加藤です。
0:22:33	それではまず私の方から何点か確認をしてさ。
0:22:38	したいと思います。まず資料 3 のコメントの整理表ですかね、こちらの表を
0:22:46	本日説明していただいた内容は、特にコメント等ありませんけれども、この今回提示していただいたコメントリスト 3 枚物を見るとですね、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:58	先日の
0:23:00	審査会合で、火災バックフィットですとか、60、現在進行形のものとの関連をよく踏まえた上で整理してくださいっていう※アノ。
0:23:12	指摘があったと思うんですけども、それに関するコメントリストが、この今3枚物にはないんですけどもそれは、
0:23:21	抜けちゃってるというそういう理解でよろしいですか。
0:23:33	日本原燃の関でございます。よろしゅうございます。そちらの内容ですねコメントリストの方に反映したいと思います。
0:23:42	以上です。
0:23:45	はい、原子炉規制庁の加藤です。おそらく、本日これに先駆けてヒアリングを行った、審査会合で同時にやったダイゴ改変人の、
0:23:56	そちらの方の褒めコメントリストには書かれてるようですので、それとこれとは別物なので、両方に展開しておいてもらった方がいいのかなと考えますので、いろいろその対応でよろしいですか。
0:24:08	はい。日本原燃の関でございます。内容承知しました。こちらのコメントリストにも追加するようにいたします。以上です。
0:24:16	はい。院長規制庁の加藤です。続いてですね本日の資料の、
0:24:22	資料1というやつ。
0:24:25	のですねページでいうと、
0:24:33	4ページですかね。
0:24:37	ちょっと代表して4ページでコメントし確認しますけれども、先ほどこの資料1の説明を聞いていますと、
0:24:47	所々にその系統構成の説明の部分があったんですが、どうもこの資料を見るとですね、系統構成はと書かれてるんですけども、内容的に見るとその設計の内容が書かれていて、
0:25:00	系統構成はということであれば、どういうものがあるってどう繋がってとかそういう系統の説明をするのが系統構成はってということなのかなと思うんですけど、ちょっとその主語と述語が、
0:25:14	一致してないように見受けられたんですけどもどうでしょうか。
0:25:38	IV日本原燃の関根でございます。
0:25:42	すいません、こちらの系統構成の記載について
0:25:49	ちょっとわかりづらい点等だと思いますので、
0:25:53	ちょっと記載のほう確認して適切に反映したいと考えてございます。以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:01	はい、原子力規制庁の加藤です。こちらの指摘もなかなか漠然としてわかりにくいかもしれませんが、こちらとしては先行の
0:26:12	納豆な書類を見た上で、ちゃんとその系統構成が書かれた上で、設計の内容も書かれてるものもありますので、ちょっとそういうものを参考に、適切な書面になるように、
0:26:26	検討していただきたいなと思いますがよろしいでしょうか。
0:26:30	日本原燃の関でございます。内容承知しました。
0:26:37	規制の方確認してですね適切に反映したいと思います。以上です。
0:26:42	原子力規制庁の加藤です。
0:26:45	あと私の方からもう1点なんですけれども資料1のですね
0:26:50	と、
0:26:51	11ページを見ていただきたいんですが、
0:26:58	11ページが蓄電池3系統目用の数量の設定根拠ということで書かれておりますけれども、
0:27:07	ここでケーブルのですね電圧効果とかは考慮した上でこの個数というのは設定されているのでしょうか。
0:27:19	日本原燃の関根でございます。はい電圧降下を考慮した上でこのセル数を選定してございます。
0:27:31	原子力規制庁の加藤です。そのあたりは今言った11ページの記載のところには何かのこの文章だけだと読み取れないんですけども、
0:27:42	こちらでもですね先行の例を見るとですね、その辺りきっちり根拠として書かれてるプラントとかもあってですね、それと比べると、ちょっとその辺りどうなのかなと
0:27:54	いう点があって今、確認をしましたが、
0:27:58	そういうことなんですけれどもよろしいでしょうか。
0:28:07	日本原燃の関でございます。はい。ちょっと先行の方確認してですねちょっと資料の方に適切に反映したいと思います。以上です。
0:28:19	はい、原子力規制庁の加藤です。私の方が確認をしたのはPWRの大井3号ですとカミヤます。
0:28:27	サンゴあたりんの記載ぶりがですね、若干今回の資料と比べるとあちらの方がちゃんと電圧降下のことも書かれていたりとかしておりますので、
0:28:38	ちょっとそちらをさ、参考というか見ていただいた上で、適切な証明になるように対応いただきたいなと思います。
0:28:53	日本原燃の関根でございます。内容承知しました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:58	はい、原子力規制庁の加藤です。私の方からは以上になります他に、規制庁の方で何かございますか。
0:29:11	原子力規制庁タカハシです。
0:29:14	先ほど、
0:29:17	加藤審査官の方からありましたわかりづらい系統剛性の表現は、特に7ページの記載がちょっとわかりづらい代表かなと思われます。
0:29:36	続きまして、幾つか確認させてください。
0:29:40	8ページですが、125V系蓄電池B深野表がありまして、
0:29:50	そこで*のまず2番目。
0:29:55	ですけれども、
0:29:57	その文章を読みますと、マター
0:30:01	以降ですね。
0:30:03	初期励磁電流 200 アンペアは、
0:30:08	メタクラパワーセンターの引き外し電流 709 アベが小さいため、
0:30:14	電流値の大きいメタクラ%センターの引橋外し電流。
0:30:19	つまりこれ 700 キャンペーンってことですかね。
0:30:22	が1分間継続するものとして蓄電池容量を計算するとありますが、
0:30:27	表のう胞を見ますと、括弧して 200 になっておりまして、
0:30:32	このちょっと文章と違ってきてるんじゃないかと。
0:30:37	読めてしまったんですがこの点いかがでしょうか。
0:30:47	はい。日本原燃の関でございます。こちら注記の2につきましては、まずこれ0分から1分値の間で
0:30:58	進展してまず不可能積み上げになりまして、
0:31:02	こちら、普通、
0:31:07	非常用ディーゼル発電機の初期励磁とメタルクラッド開閉装置及び%アノ遮断機の引き上げし、この負荷というのがと同時に、
0:31:17	負荷として乗ることがありませんと。それに対してメタルクラッド開閉装置及びパーセンター遮断機の引き外しのおっきい負荷の方、こちらを
0:31:31	選定して容量の評価をして、
0:31:35	これと板野中期になります。
0:31:39	はい、以上になります。
0:31:45	規制庁タカハシです。文章をそのまま読みますと、容量の大きい比木外し電流の方が 709 アンペアと括弧であって、そちらが1分間継続すると読めるんですが、表の方ですと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:01	発電機の初期励磁の 200 になっているので、なぜここは 709 と書いてないのかという質問です。
0:32:34	はい。
0:32:35	しないから。
0:32:37	日本原燃の関でございます。
0:32:39	すいませんこれ注記のところを、まとめて今 709 って書いておるんですが、表 1-1 のところで止めたクラッド開閉装置遮断機制御電源というのが一番上の、
0:32:50	表の方で 555 アンペアと、その下にパワーセンター遮断機制御電源と書いてありますところ、1 分値のところは 154 アンペアということでこれを合わせてですね。
0:33:02	709 アンペアとしてございまして、その下の非常用ディーゼル発電機の初期励磁のところにつきましては、同時に入らないといったところで、
0:33:15	評価上アノ 200 の方は、ではなくて上の二つを合わせた 709 万ぴあで評価しておるといった形でございます。以上です。
0:33:28	規制庁高橋です。わかりました。ちょっと文章の流れからいうとちょっとわかりづらかったので、
0:33:34	今ほどご説明のあった二つの生業電源ですね。
0:33:40	これ一が足して 709 と。
0:33:44	これを、その初期励磁の 200 に代わって、
0:33:48	1 分間継続してみたという、
0:33:51	趣旨かと思いますので、
0:33:53	ちょっと後、まさしく新野。
0:33:55	文章ですとちょっとわかりづらかったんですが、何かこの引き外し電流、
0:34:03	呉と、その制御電源のこの表現がちょっと、
0:34:08	言葉
0:34:09	長一致しないので、
0:34:11	読めるようにしていただけますか。日本原燃の関でございます。承知しました。こちらの注記 2 の方ですね、ちょっとわかりやすいように、上の表とも
0:34:22	わかるような記載に修正いたします。以上です。
0:34:28	規制庁高橋です。続きまして同じ表のですね、
0:34:33	タダノ確認ですが
0:34:36	ハタ*4 のついていて括弧のある、
0:34:41	非常用無停電電源装置Bの

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:45	記載ですが、
0:34:46	先ほどもう同様ですがこの括弧内の数字というのは、
0:34:51	この負荷計算で
0:34:54	加味せずにこの場合はサンケイ止めようの。
0:35:00	無停電電源装置、イデエますよというふうに読めますが、要は無停電電源装置Bは、
0:35:11	0で、
0:35:12	3K止めようの方が、
0:35:15	思っ、負荷容量計算の積み上げをしているという理解でよろしいでしょうか。
0:35:21	日本原燃の関根でございます。はい。高橋さんもおっしゃられた通りでございます。
0:35:26	と無停電電源装置 3 系統目様から、非常用無停電B系の負荷に、電気計装電源の方をですね供給するため、
0:35:34	非常用無停電のB系につきましてはフカワないといった形で括弧書きで、容量設置、容量上の積み上げには入れておりませんが、3 系統目側で、その分の負荷が乗っていると。
0:35:48	と示し方になります。以上です。
0:35:53	はい。規制庁高橋です。
0:35:55	続きまして通し番号 19 ページ目。
0:36:02	Aの
0:36:04	1 ポツの要領の設定根拠のところの、真ん中の段落のところの、
0:36:10	真ん中の行で、
0:36:13	緊急 125V蓄電池よりも負荷負荷の大きいと書いてありますが、
0:36:19	これは負荷電流過負荷容量の間違いではないでしょうか。
0:36:39	はい、日本原電の関でございます。
0:36:42	ちょっとすいませんこちら大変申し訳ございません。記載の方、適正化いたします。
0:36:53	おっしゃる通り負荷電流でございます。
0:36:57	規制庁高橋です。同じく 20 ページの表の注記の一番なんです、
0:37:07	一番の 2 行目の容量が最大となる 191 分から 60 分に使用される負荷容量を示すとあって、
0:37:15	ちょっとその表の方の、新しく 1 見ますと負荷電流と書いてあって、ただ、
0:37:21	タイトルは良い予算でですね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:24	ただこの、
0:37:26	負荷電流というところから来るとこの辺も、
0:37:32	電流が最大となるのか負荷最後のところも負荷電流を示したのかちょっとこれ、容量と電流の記載がちょっといろいろ混在しているものですから、
0:37:44	ちょっと、ど、いずれか正しいほうに統一していただければと思います。
0:37:50	はい。日本原電の関でございます。
0:37:52	はい。内容承知しました。こちら、負荷電流の方がちょっと適切かと考えてございますので、記載の方ですね
0:38:01	修正いたします。以上です。
0:38:04	規制庁高橋です。私からは以上です。
0:38:13	原子力規制庁の加藤です。ただいまの高橋の方から指摘があった点はこのページだけではなくて、資料1 全体的に、
0:38:23	ちょっと確認していただきたいなと思います負荷容量等負荷電流その辺りの使い分け、あと1があって使い分けをしてるんでしょうけどちょっとこちらが読むとですね混在してる。
0:38:37	ような感じも受けますので、その辺り整理した上で正しく示していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。はい。日本原燃の関でございます。優勝しました。こちら全体通してですね、整合を図るような形で、
0:38:52	記載のほう適正化いたします。以上です。
0:38:56	はい、原子力規制庁カトウです。まず先ほど私から刺激したその系統構成はのところも含めて、若干その文章全体的に
0:39:06	適正化を図って呼び、そのまま我々が理解しやすいような書面にしていたいただきたいと思いますので、
0:39:14	対応お願いします。
0:39:16	はい。日本原燃の関でございます。内容承知しました。
0:39:23	はい、原子力規制庁の加藤です。他に、規制側から何かございますか。
0:39:28	はいでは規制庁側から特に指摘は以上になりますので事業者の方から何かございますか。
0:39:39	元モリです。こちらはありませんので発電所の方、何かありますでしょうか。
0:39:48	はい。発電所の方からも特段ございません。
0:39:52	はい、原子力規制庁の加藤です。それではですねただいまをもちましてヒアリングを終了したいと思います。どうもお疲れ様でした。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。